

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	0170503916		
法人名	医療法人社団 鈴木内科医院		
事業所名	グループホームきよたⅡ		
所在地	北海道札幌市清田区清田4条2丁目10番27号 (電話) 011-882-2347		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年9月26日

【情報提供票より】(20年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月17日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 11.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000 円	その他の経費(月額)	20,000~26,000 円	
敷 金	有 (円)	⓪ (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	⓪ (58,000円)	有りの場合 償却の有無	⓪ / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(7月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	4 名	要介護2	6 名			
要介護3	1 名	要介護4	5 名			
要介護5	1 名	要支援2	1 名			
年齢	平均	84.3 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌しらかば台病院・玄番歯科クリニック・鈴木内科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営母体である内科医院が、長年にわたり地域で信頼を得ている関係もあって、地域との連携が特に良好である。地域の老人会に、職員の引率なしで利用者を受け入れる体制ができており、毎月参加するなど、地域住民と利用者の交流を日常的に図っている。毎月のボランティア受け入れや、併設のデイケア訪問などを通し、介護度の高い利用者にも、交流の機会を確保している。ユニットの枠をはずした職員のシフト制を導入しており、2ユニット合同で行う毎日の申し送りは、ケアをする上でプラスになっている。また、内科医院に併設する事業所であるため、健康管理面に安心がある。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で、市との関係づくりへの取り組みを期待されていたが、様々な点で行政と相談したり、指導を請うなど、良好な関係を構築している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各自が自己評価表に記載をしてから、職員全員で自己評価について話し合いをするとともに、外部評価の後も、課題について職員で話し合い、見直しをしながら取り組みを考えている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に家族の参加を呼びかけ、地域の方々と話す機会として活発に意見交換をしている。事業所として、意見を尊重しケアに活かしている。また、家族以外にも、デイケア利用者家族が、会議を傍聴する場合もある。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議に多数の家族が出席し、家族間で親しく活発な話し合いを持っている。職員が同席することで、参考意見は事業所としての確に受け止め、ケアや日常の利用者の過ごし方に活かしている。また、面会時に家族に要望などを尋ねる際には、事業所発行の「たより」を糸口として、話し合いができています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目 ④	事業所として、町内会に加入している。加えて、毎月の老人会に、利用者3名ほどが参加している。また、事業所の行事には、地域の子供たちやボランティアが応援をしている。災害時の協力体制として、地域の連絡網も整備している。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	きよたⅠの「ここは私の家です」との理念を基に、地域密着型サービスとしての考えを盛り込み、きよたⅡとして具体化した、事業所独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員と共に、会議や日々の申し送り時に、実践に向けて理念を確認し、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の町内会加入はもちろんのこと、老人会には毎月の例会に3名の利用者が月替わりで参加し、カラオケ等を楽しみ、「職員は送迎のみでいいですよ。」と、利用者につき添いがなくても参加可能と言われるほど、積極的に受け入れられている。事業所の行事には、地域の子供や住民の参加があり、良好な関係づくりを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者から、自己評価及び外部評価の意義の説明をし、全職員は、日ごろの業務の見直しをする機会として受け止め、取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議への家族の参加を呼びかけ、地域の代表者と話す機会を設けている。活発な意見交換を行い、ケアに活かしている。また、悩みを抱えたデイケア利用者の家族が、傍聴するなどし参加する場合もある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は、行政の担当者と日常的に連携をとり、指導と助言を得て、運営に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所全体のお知らせと、個別に作成した日ごろの利用者の様子がわかる写真等を盛り込んだ「きよめーる」を、毎月家族に送っている。また、金銭報告書は、事業所の面会時に家族に渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、管理者や職員は気軽に声かけをし、意見や要望などを話し合えるような雰囲気づくりに努めている。また、運営推進会議では、参加家族間で話し合いを活発にしており、それらを運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの枠を越えた職員の勤務体制により、職員の異動による利用者への影響を、最小限に止めている。さらに、職員間の良好な連携が、事業所として定着し、細かな配慮となっている。職員の異動は、管理者からの便りで家族に知らせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人のデイケア・医院・グループホーム合同で、毎週1回勉強会を開催し、職員は交代で出席している。また、管理者と職員は、認知症専門誌等を読み、インターネットを利用した月1回のレポート提出の義務付けがあり、全職員で日々の気づきや専門知識などを共有し、意見を交換しながら学びを深め、質の高い介護を目指し、実践に活かしている。勉強会・レポート・その他の研修等の記録を、データ管理し整備している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の管理者会議や、グループホーム交流会の開催など、活発な交流を実施している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が、見学をしたり話し合いをすることで、不安を少なくし、安心の住まいとなるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ユニットの枠を外して関わりをもち、利用者に個別に寄り添い、うなずき、本人本位に支援し、協働の生活をつくりあげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の声を受け止め、本人本位に支援することに努めている。また、声にならない場合、表情や家族の意見を聞きながら、支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事業所が、利用者にとって安心の場所となるように、職員全員でケアのポイントを確認し、介護計画に沿って支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の会議(「にこちゃん会議」)で、利用者の介護計画について検討し、現状に即しているか否かを充分話し合うとともに、3ヶ月毎に見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族が宿泊したり、希望に沿って個別の外出へ同行し楽しい時を共有するなど、事業所として多機能性を活かした取り組みをしている。調査当日も、前日からの宿泊の家族が利用者と一緒に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体が、併設の内科医院であり、2週間ごとに往診を受けている。また、屋外に出なくても事業所内を通り受診できるメリットがあり、利用者と家族の安心につながっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「重度化した場合の対応に係わる指針」に基づいて話し合いをし、同意を得ており、さらに、利用者個別に症状が重度化した場合は、方針を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、一人ひとりの利用者に対して、プライバシーを損ねるような態度をとらないよう、尊重しながら支援している。事業所便りを個別に作成するとともに、写真の取り扱いにも配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のおおよその日程はあるが、職員は利用者一人ひとりのペースを大切にし、特に介護度の重い利用者には寄り添いながら、ケアをしている。華道や大正琴・カラオケのボランティアを受け入れ、利用者の楽しみとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や盛り付け・配膳など、準備から利用者と共に行うとともに、食卓の配置に配慮して、楽しく食事ができるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を優先し、入浴を強制ではなく楽しみとなるように言葉かけなどを工夫し、週2回をめどに支援している。浴室は明るく気持ちの良い造りになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来ること・したいこと・出来そうなこと等を、個別に把握して、簡単な家事などに感謝の言葉を添えるなどしながら、ケアをしている。毎月の地域の老人会への参加などは、楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の窓から小学校のグラウンドが見え、子供たちの様子を眺めるなど、利用者の笑顔が増している。デイケアの車を借りて、車椅子での外出支援もある。中庭や前庭に置いたベンチとテーブルを利用して、戸外の空気を吸う事もできる。また、近所への散歩やデイケアの見学など、様々な支援をしている。外出の行事も多々実施している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外玄関は、日中施錠をしていない。チャイムによって、扉の開閉を把握できるような仕組みになっており、さらに、職員が外出願望の利用者への目配りを怠ることなく、常に確認をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、地域のボランティアと消防の協力を得ながら実施している。また、地域の連絡網を作成し、災害時には町内会の役員にも連絡がいく仕組みになっており、協力体制ができています。マニュアルと記録は共にファイルをしている。	○	今後は、夜間想定避難訓練の実施や、さらに、地域の連絡網の試用などの取り組みを期待する。また、記録を整備するなどの見やすい工夫も望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量のみならず、水分や栄養バランスなどを考慮した献立を提供し、利用者の健康管理の支援をしている。併設のデイケアの栄養士による、点検と指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	医院に併設する当事業所は、階段幅や廊下幅に配慮があり、利用者の馴染みの造りとなっている。また、利用者の状況に合わせた食堂のテーブル配置をするなど、工夫をしている。居間の窓から小学校のグラウンドが見えて子供の声が聞こえたり、庭の緑や花も利用者の楽しみとなって、居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には収納部分があり、好みの家具やテレビ・家族の写真・植木鉢など、思い思いに配置し落ち着いた居室になっている。窓から小学校のグラウンドや手入れの行き届いた庭が見えて、利用者の心が和む佇まいとなっている。		

※  は、重点項目。